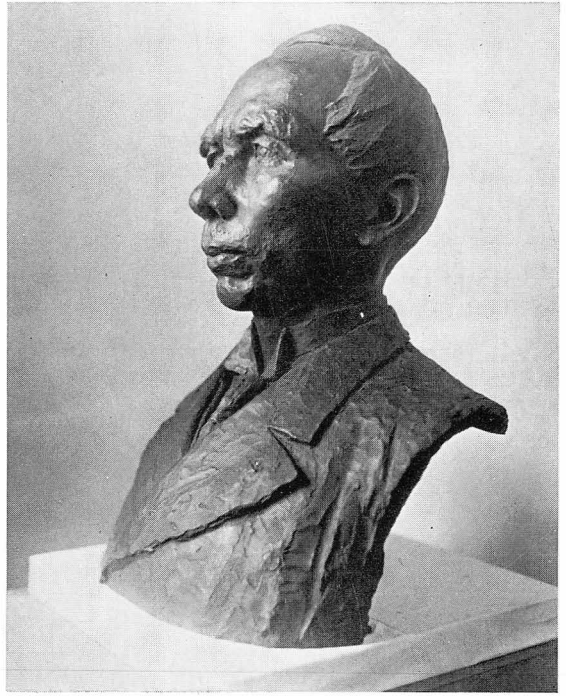


成瀬仁蔵著作集

第三卷

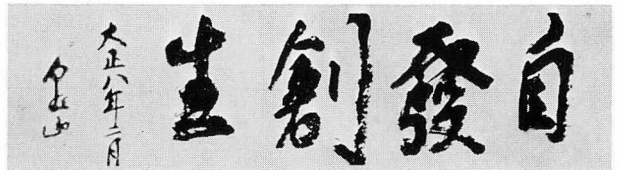


成瀬先生胸像

日本女子大学校の教育三綱領



信念徹底



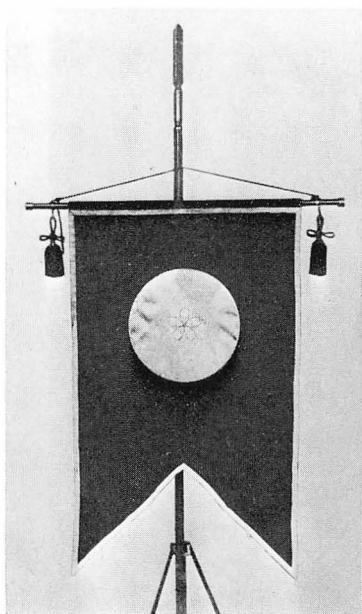
自發創生



共同奉仕



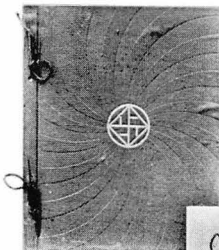
日本女子大学構内の先生の旧宅



日本女子大学校旗



書齋の成瀬先生

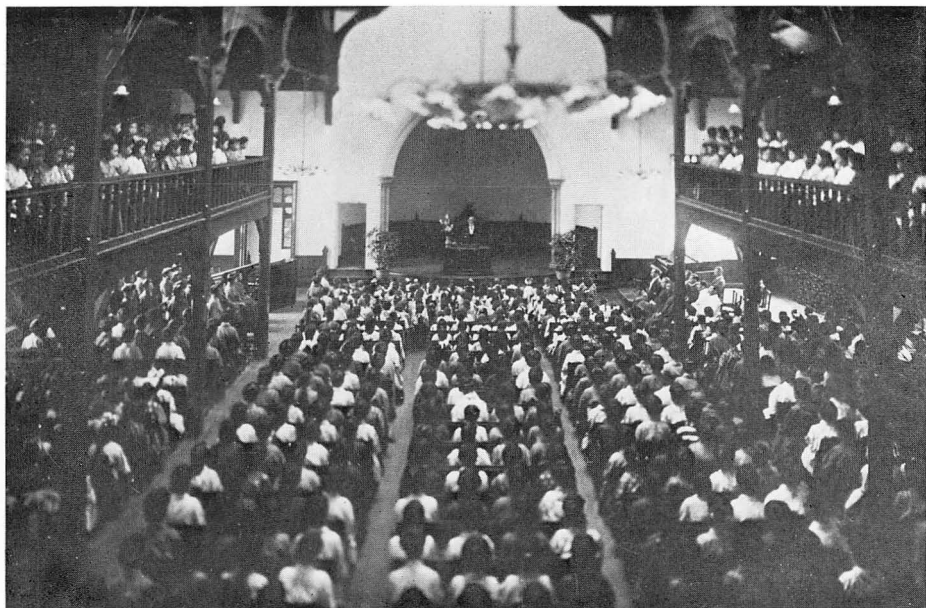


Capabilities of thinking
 (B) of willing to know the
 sign is never static something -
 but a process - a becoming /
 meaning toward a far away ideal.

Genesis. Origin - of total
 Change of feeling, of belief,
 & aspiration (total purpose)
 of life -
 Social life -
 1. Life, not institution, activity
 ① Scholasticism -
 ② Practicism -
 Life by means of life,
 not books and reputation -

実践倫理記入ノート

上は表紙、下は同ノートの
 或る頁（先生記入）表紙の
 中央マーク及び用紙の図案
 はその精神内容を表徴した
 もの



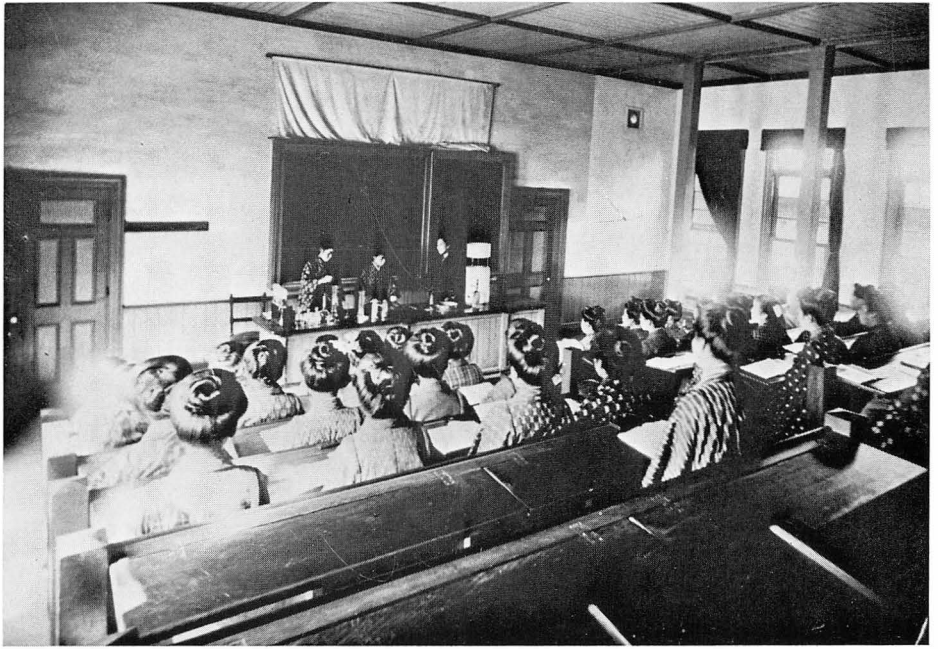
実践倫理の講義



御大典記念 桜楓家政館



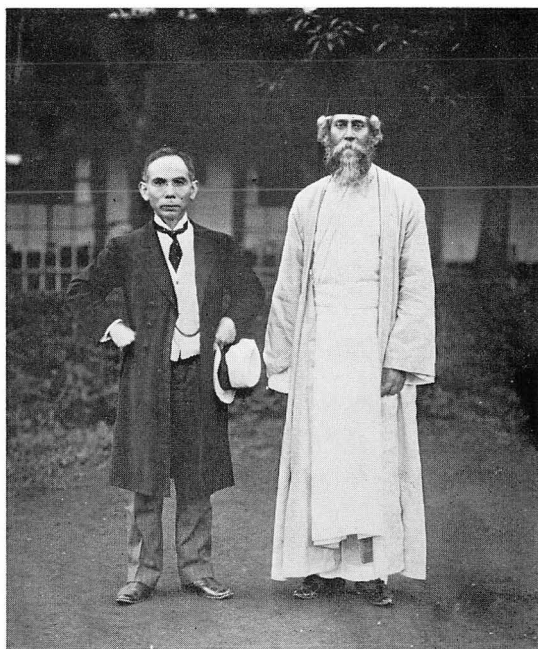
成瀬先生と豊明幼稚園児



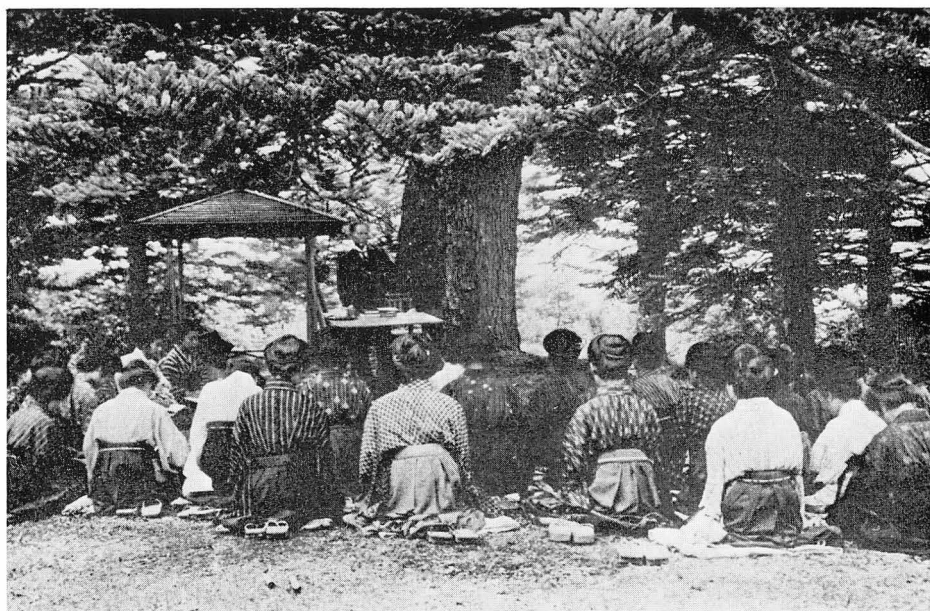
化学館階段教室における実験



日本女子大学校創立18年記念植樹



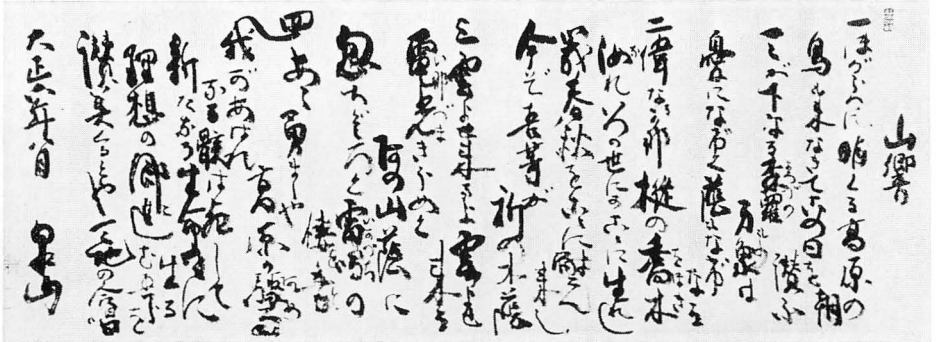
成瀬先生とタゴール



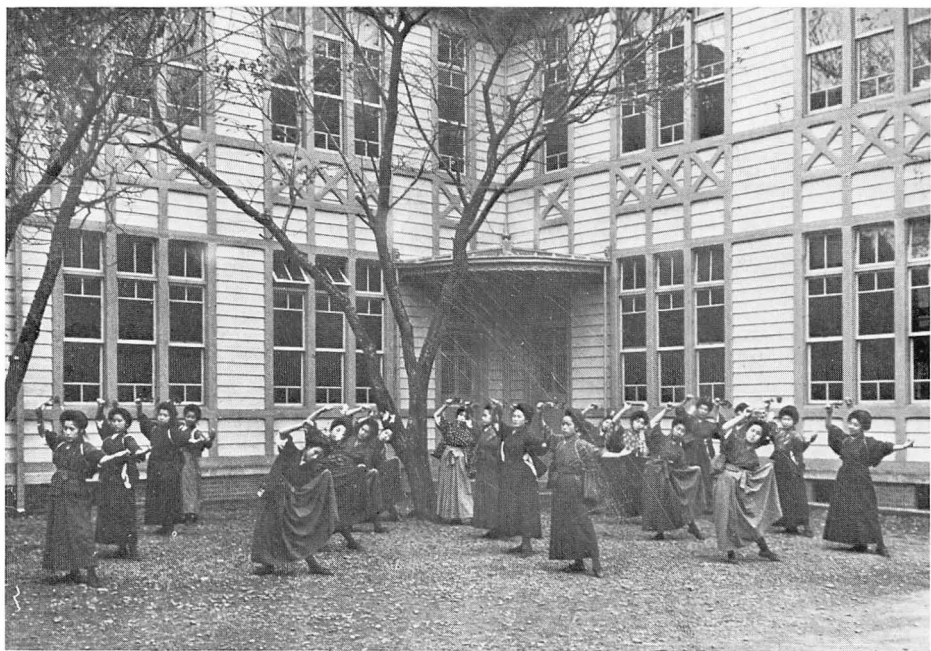
大正6年度軽井沢山上における10回講演



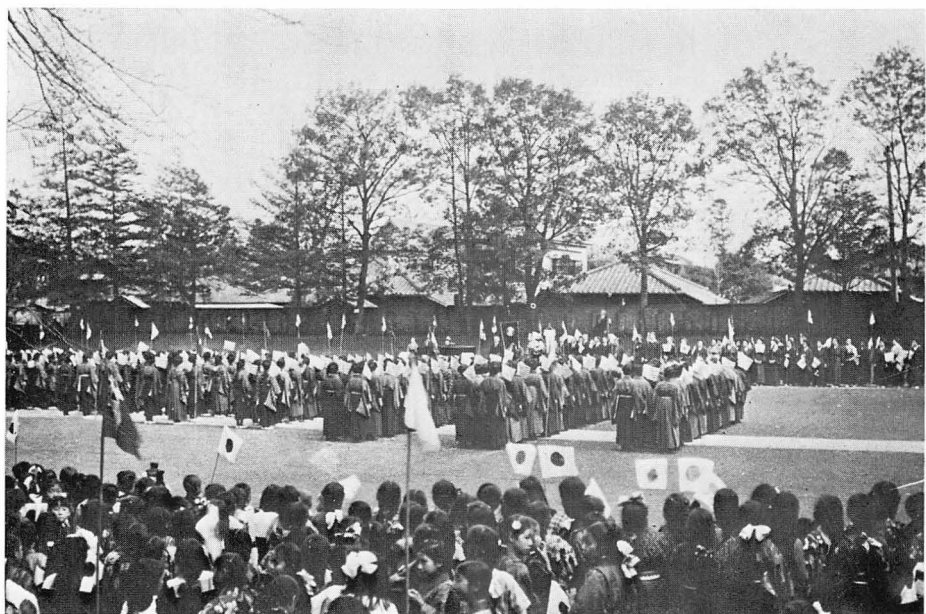
軽井沢三泉寮における夏期修養会



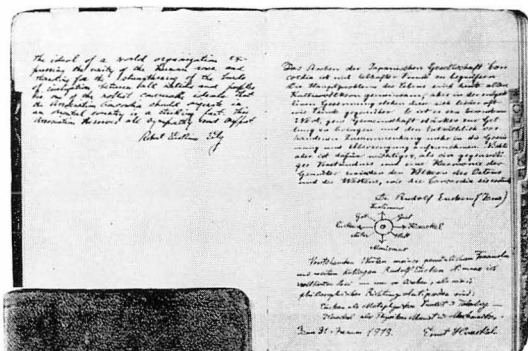
第15回生の軽井沢山上生活記念歌



運動会



休戦祝賀会分列行進



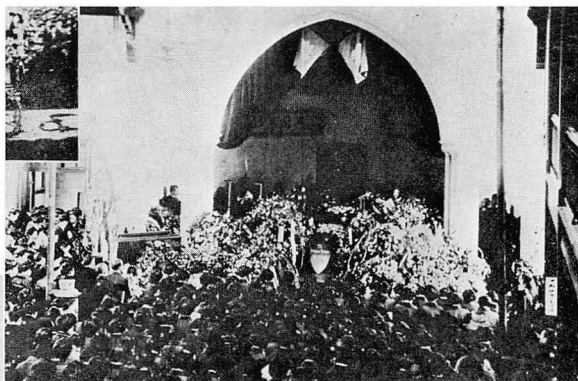
「帰一協会」の運動に関するノート
 ルドルフ・オイッケン教授（ドイツ・エナ大学）
 および エルンスト・ヘッケル教授（ドイツ・エナ大学）の感想ならびに自署



大正6年8月軽井沢における帰一協会員の集り
 前列右より 島田三郎・渋沢子爵・芳賀矢一博士
 後列 先生・小川鈍吉・井上雅二・小山東助の諸氏



日本女子大学校講堂における成瀬先生の告別講演



日本女子大学校における
成瀬先生告別式



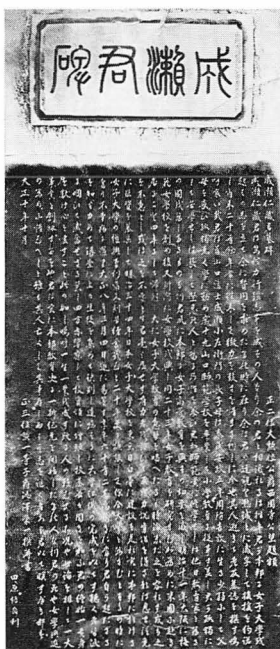
永眠の先生

告別の歌

限りしらぬ 過去世より
 終りあらぬ 未来遙かに
 断えず流れつ 浪うてる
 あゝ、不壊の いのちあり

哲人覚 圓にて
 今ぞ假合の きぬ脱ぎ捨てつ
 光明の裡に 故郷へ
 やすらかに たち給ふ

崇き示視 深ければ
 淨き信念 果を結びては
 別離は竟に 世のものぞ
 わが師こそ 永劫に生く



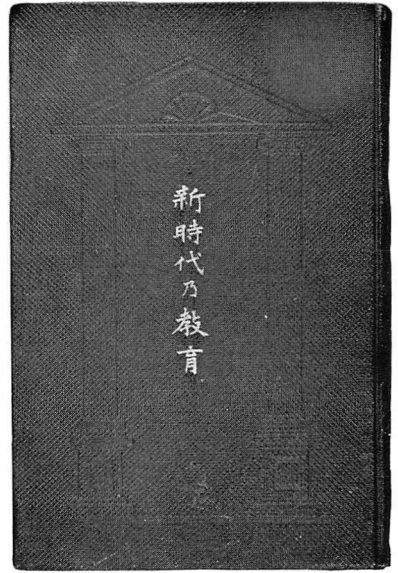
成瀬先生墓碑



成瀬先生墓標



「新婦人訓」(大正5年発行)



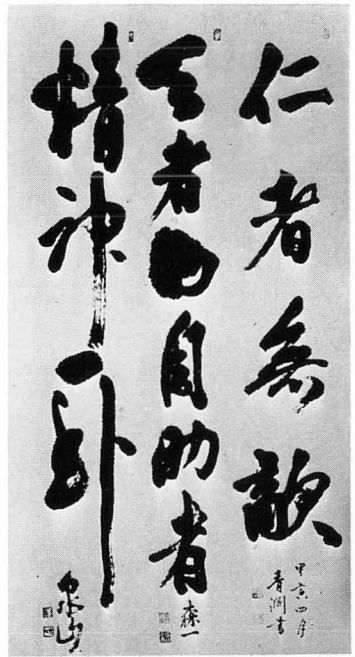
「新時代の教育」(大正3年発行)



婦一協会関係資料



教育調査会および
臨時教育会議関係資料



記念揮毫

仁者無敵 (波沢栄一)

智者自助者 (森村市左衛門)

精神一到 (成瀬仁蔵)



第15回生に与えられた標語 自念自動

一神は身久不滅なり今智念は色更空室
 覺了了不朽之身なり故に神の身も願ひ
 神を敬愛し奥深き美徳を修行神樂は
 二沙の空教は善を行ふ者なり其行は善りは之を
 三罪業に對し存絶を戒めしは此の善を好
 四沙の父母を身出さず光りたる人は神教と
 五沙の親族を愛し父母の國を善めし國
 六沙の道徳を尊べし
 七沙の明を好む二の世りありと悪むべし落おれ
 八沙の時も決して之を棄て去る可はず死を
 九沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十一沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十二沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十三沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十四沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十五沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十六沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十七沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十八沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 十九沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 二十沙の巧は金色の衣なりと慎むべし何事をも
 各自由信計を信じ重寶
 の生活各自由進んて誓ふ

第13回卒業生の修養会の誓文 (大正5年)

夫れ結婚は人倫の大本
 一も敬も夫の念を以て
 其の始りて慎み其
 終りて全ふべきなり
 夫婦の道は人格と人格
 と結合し相敬し相愛し
 和樂の中自ら二而一人
 格を渾成するに日り故
 以て夫婦は長短相補ひ
 別業不相妨し善を向ふ
 若も身うち夫唱へ婦和
 して頤らく雙體一心に
 生くべし言まて互に志
 を去り天意に就き高
 潔にして圓滿なる家庭
 を営むと信じて居置奉
 慶福とすすけ長子孫に
 餘澤を遺し進んは國家
 の目的と守守の奉養に參入
 すも完全なる人格を成就
 せし人生の真諦とす神志
 茲に大橋源一郎と神田
 は天縁に由りて婚を結ぶ
 里中見り夫徳者自ら奉養
 するに自れ若自と婦人
 及親戚朋友の前於て相成
 は誓ひ其相敬し祝福降

結婚誓文

病床中に執筆された遺訓

天心自念身心盈天命感應養永生天真爛漫自流露天賦人格竟熟成

天心自念身心盈天命感應養永生
天真爛漫自流露天賦人格竟熟成
大正九年

天以重大任務命爾輩生努力成天意

天以重大任務命爾
輩生努力成天意
大正九年三月
若井五香子 白雲山

德不孤必有隣(絶筆)

德不孤必有隣
大正九年三月五日 若井五香子 白雲山

